

【教育目標 げんきいっぱい えがおいっぱい いきいき表現する子ども】



きらきら

新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和4年10月28日発行

挑戦し、共に取り組む

園長 青木博子

年長組は、これまで、技巧台によじ登り、跳び下りる遊びを楽しんできました。70 cmと90 cmの技巧台の好きな方を選び、挑戦してきました。70 cmを選んで楽しんでいた子どもが、90 cmに挑戦しました。始めは足を掛けてもなかなかよじ登れなかったのですが、一緒のグループの子どもがさりげなく身体を支えてくれて、ついに、その子どもは90 cmによじ登ることができました。この子どもは再び90 cm



に挑戦します。両手と片足を台の上ののせて身体を持ち上げようと、真っ赤な顔をして踏ん張っていました。諦めずに踏ん張る中、ついに自分の力でよじ登ることができました。自分の力だけで2、3回よじ登った後、担任のところへ駆け寄り「90 cmできました」と誇らしげに伝えます。担任は「見てたよ！やった！」と両手を出すと、子どもはハイタッチして、また巧技台へ向かって走っていきました。

その後、よじ登り、跳び下りた後、先に跳び下りた同じチームの友達とハイタッチして喜び合う姿がありました。また、同じチームの友達がよじ登ることができないでいる姿を目にすると、今度は自分が友達の身体を支えてあげる姿もありました。また、何度も挑戦する過程で、そばで見ていた子どもが、その子どもの身体を支えようと近づいていったとき、それに気付いた他の子どもが「今は手伝わなくていいよ」とそっと伝え、自分の力で挑戦することを見守り、二人が応援する姿もあったのです。

『挑戦する力』は友達がいるからこそ育まれます。刺激し合ったり、支え合ったり、喜びを分かち合ったりすることが、「挑戦する力」を育むのです」と、担任は言います。

子どもは、「やりたい。できるようになりたい」と願い、自分の力でできるようにと考えたり、工夫したりします。そして、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになります。それは、友達という大きな存在に支えられています。諦めずに90 cmに挑戦しようとしたのは、「友達みたいにできるようになりたい」という強い思いと、自分の身体を支えてくれる友達の応援があるという精神的な支えがあったからです。

一人で学ぶ時間ももちろん必要です。さらに、子どもたちの力を本当に伸ばすのは、友達と学び合う「協働的な学び」であると考えています。今日も沼垂幼稚園では、子どもたちが協働的に学び合っています。

楽しい音遊び

年少組のお部屋に行きましたら、子どもが「音がするんだよ！」と、円柱の空き箱を振ります。カラカラと音がします。子どもは何度も何度も箱を振って音を聴かせてくれました。次に、サランラップの空き箱を振ります。すると今度も、ジャカジャカと楽しい音がします。もう一つの別なサランラップの箱を振って音を聴かせてくれます。シャカシャカと優しい音がしました。子どもは、サランラップの空き箱を見せながら言いました「ここをテープで留めたんだ」。ビニールテープで蓋を留めることで、中身が出ないと言うのです。もう一度サランラップの空き箱と別のサランラップの空き箱を振って、言いました「音が違うんだよ」。「あのね、こっち（音の大きい方）はどんぐりが入ってるの」。「そうか！」と私が驚くと、「うん。それでね、こっち（優しい音）は、紙なんだ」。そう言うと、ビニールテープを外して、うれしそうに箱の中を見せてくれました。

すると、他の子どもが近づいてきました。手には丸いチーズの箱持っています。そして箱を振りました。すると、ジャカジャカと楽しい音がしました。ふと見ると、さらに他の子どももサランラップの箱を振って音を楽しんでいます。



この活動は、年少組が隣の沼垂小学校に散歩に行き、どんぐりを拾わせてもらったことから始まりました。興味を持った子どもがさらに自発的におうちに帰ってから公園などへ拾いに行き、園に持ってきました。たくさん集まったどんぐりは形や大きさごとに入れ物に入れます。また、様々な箱は、ご家庭からいただいたものをいつでも使えるように準備してあります。そのような環境の中、子どもはどんぐりを触ったり転がしたりして、偶然音が出たり音が変わったりする楽しさを味わいます。また、担任のしていた遊びに興味を持ち、自ら、どんぐりの量を変えたり、紙を入れたりして、次々と音遊びを楽しみ、気が付いたことを担任に伝えて満足感を味わう子どももいます。一人でももちろん楽しいのですが、そこに、友達との関わりが生まれることにより、遊びはより楽しいものとなるのです。



そして、この遊びは、小学校低学年の生活科で学ぶ「遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くこと」から、小学校3年生の理科で学ぶ「物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わること」へと、確実につながっていくはずです。

このような、年少児が素材の特徴に気付き音を楽しむ姿は、「考える力」の芽生えであり、その姿を私たちは大切に育てていくつもりです。